

みずば

第2号

発行日 平成18年11月15日

発行 板倉町教育委員会 文化財保護係

T E L 0276 (82) 1111 内157

第12回水の文化史展開催にあたって

町には多くの水文化が息づいていますが、今回は、雷電信仰に焦点をあてたものです。古代より雷（雷神）と蛇と龍は一体との考えがあります。雷電神社の茅の輪、彫り物、掛軸など龍の世界を紐解いてみたいと思います。さらに鏗山英次氏の写真で世界の龍蛇を紹介いたします。(11/15~11/30)

掛軸

33年に一度の御開帳の際に本殿に掛けられるものです。龍の目に光があたると、雷雲が起きると謂われています。昭和27年の御開帳時に眼を覆わないで掛けたところ、雷雲が発生し、あわてて直接白紙を張ったそうで、白く跡が残っています。昭和60年の際にはあらかじめ眼を覆い、御開帳したそうです。そんな龍の気迫を感じる画です。

掛軸本体は195×66cm、画は124×55cmです。

飛龍とも考えられますが、明らかではありません。

また、掛軸の由来がはっきりしないのも不思議です。

彫り物—飛龍と八岐大蛇伝説—

社殿は多彩な彫り物で飾られていますが、親子の目貫龍が迎えてくれます。本殿縁下には頭から胸までの龍が四方を守っています。西側の大羽目板には「稲田姫」つまり「八岐大蛇」が彫られています。暴れ川の洪水を治めたとする逸話ですので、まさしく板倉の地にあった彫り物です。また、本殿東軒下の水を司る「飛龍」2体は、神社にふさわしく、動きすら感じます。

総計22体の龍が彫られています。

そのほかに、蟻股の干支に「龍」と「巳」があります。

雷電神社

総本宮雷電神社は、元来板倉沼に突きだした半島のような雲間に造られ、農耕神としての天神（雨乞い・農作物の豊饒神）と田ノ神（山の精である水神の化身、龍神）が集合した産土神を祀っています。現在では雷雨（水）という恵みの雨を乞い、落雷除けを併せ持った農耕の神となっています。

茅の輪

夏越の神事として、神社では刈り取った真菰で茅の輪を作り、最後に入形とともに、利根川に流します。障害物にぶつかると不作、うまく流れていくと、その様を「雷電様の龍が昇天した」とたとえ、豊作になるだろうと喜んだそうです。

雨乞い

近隣より、雨乞いのための「お水取り」に、神社に竹筒を持って、やってきます。

なかでも有名なのが埼玉県選択無形文化財の雨乞い神事（鶴ヶ島市脚折）です。亥ノ子沼（御手洗沼）から汲んだ御霊水を竹筒に入れて帰り、雷電池に注ぎます。そして麦藁や竹などで作った36mの龍蛇が担ぎ手によって、池の中を縦横無尽に動きまわります。最後、龍蛇は水神を怒らせて落雷と豪雨を誘うため、担ぎ手によって、一気に解体され、昇天となります。



雷電神社（彫り物）

世界の龍と蛇 (東洋大学教授 松浦茂樹)

世界各地を回られている鏝山氏が、長年かけて撮られた龍蛇に関する写真を展示するものである。鏝山氏は、体系的に撮ったものではなく、自分の関心のいくまま心の声に従って写したと言われるが、まことに興味深い多くの写真を撮られている。今回は、その一部を展示する。

鏝山英次氏 (つばやま えいじ)

1931年生まれ、福井県出身。中日新聞などを経て現在はフリー。

日本写真協会理事、日本舞台写真家協会会長
著書『秘境の仏たち』など

共著『渡良瀬有情』『湧水探訪・深大寺』など

日本の龍と蛇

縄文土器に数多く描かれているように、日本の古層の思想には蛇信仰がある。正月に飾る「しめ縄」とは、蛇あるいは「蛇の交尾」との説がある。蛇は、新たな年の始まり、つまり再生の象徴としての意味をもつ。やがて中国から龍思想が入り、雨や水の守り神、あるいは怒らせると洪水を生じさせる神、龍神信仰として広がっていった。

キリスト教と竜蛇

キリスト教にとって蛇は邪悪そのものである。今日、ヨーロッパの多くの都市で、竜・蛇と闘い、勝利を収める聖ゲオルギウス(英語名セント・ジョージズ)の像を見かける。ヨーロッパでは雨は比較的少なく、森林を伐り沼を埋めて畑を開いていった。ここでは自然は征服するものであり、蛇は征伐する対象であった。

アジアとナーガ信仰

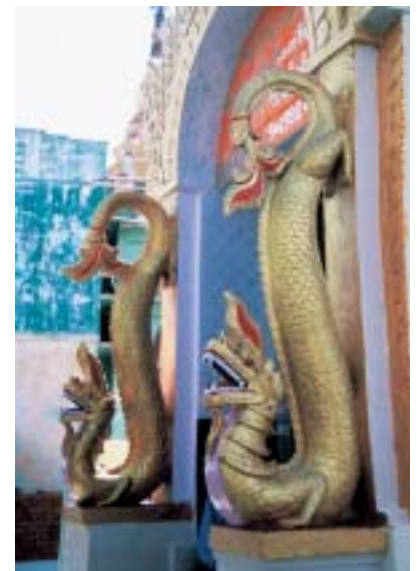
ナーガはサンスクリット語で蛇のことであり、コブラを神格化してインドで生まれた。ナーガは雨を恵む水の神で、ナーガ信仰は東南アジアに広く広がっていった。それは、東南アジアの自然風土と強く結びついたものだろう。ここは雨期になると洪水は溢れ大地は水浸しとなった。人々は生存のためには蛇、つまり自然との共生が求められたのである。



秩父神社



ストラスブルグ大聖堂



ミャンマー

中国と龍

中国人は、自らを龍の子孫という。中国の古代神話の中に龍は天地開闢の神としてしばしば現れる。この神は皇帝の中国統一を守り、大禹に治水の力を与えた。龍は皇帝自身そのもの、あるいは王朝の守護神となった。今日、人々にとって 神様の多くは龍の化身であり、龍は雨を降らせる水の象徴として信仰されている。



香港